

【ねがいましては】

第64号

平成6年4月23日
共和珠算学習塾

「気づく」

この「気」というものは、最近とても多く私たちの周りで取り上げられていることのひとつだと思います。気功などで病を治したりなど、テレビや本などで紹介されています。

気のいろいろ・・・元気、やる気、根気、負けん気、のん気、本気など。その中でも仲間に入れてもらえるかな? と思うのは「気づく」「気がつく」というもの。

とかく私たちは何事に対しても忘がちな生活を送っています。健康が続くとき、健康だなあと思いにくくなり、食事をとるのが当たり前になると、食べられるんだなあと思いにくくなり、眠るのが当たり前になると、眠れるんだなあと思いにくくなり、働くことが当たり前になると、働くんだなあと思いにくくなっています。その状態が長く続くと、それが当たり前になってしまいます。

その点、相田みつをさんは気づくことを教えてくれます。

「あかげさま人生」

- 一、バカのおかげでお利口がひかる
- 二、落ちてくれる人のおかげで合格できる
- 三、負けてくれる人のおかげで勝たせてもらう
- 四、脇役のおかげで主役が生きる
- 五、職場があるから働く
- 六、後輩のおかげで先輩になれる
- 七、子どものおかげで親になれる
- 八、嫁のおかげで姑になれる
- 九、相手(縁)がなければケンカもできぬ
- 十、聞いてくれる人のおかげでぐちもこぼせる
- 十一、下水のおかげで水も流せる
- 十二、読んでくれる人のおかげで書かせていただく

などです。常に裏表をみつめています。

さて、人が生きていく上で目標を持って歩いていくことはとても大切です。自分の足を見て歩くことはとても落ち着いていると思います。が、どうも子どもたちの心の中には目標を少し取り違えて解釈している子がいるようです。自分の意思で歩ければいいのですが、目標達成のために徐々に追いかけられる生活を送るようになる子がいるようです。勉強であったり、部活であったり、おかあさんであったり・・・。

先ばかり見つめるようになり、後ろをふり返ることが少なくなります。後ろにいるものに「気」がつかなくなっています。そこに何かとても大切なものを忘れてしまっているような気がします。知らずに人を傷つけていたりするのです。そんな時、相田さんの作品は安心感を与えてくれます。気づかせてくれたことに感謝を覚えます。

学習の授業の時、「先生質問」「次質問」などとあちらこちらから声がかかります。とてもうれしいことです。が、これからは声にならない質問に「気がつく」ように努めなきやいかんなあと常々思うようになりました。時々、自分の学習をそっちのけでとなりの子に勉強を教えている光景も見られます。私はうれしくなります。その間、その子は自分の勉強はストップしているわけですが、その子にとっては貴重な心のバトンの渡しあいをしているんです。その時、互いに心が温かくなっていると思うのです。

私は教室の中をあっちこっちしているとき、とても元気です。きょうも言葉にならない「わかりません」に気づくようにがんばりますのでよろしく!